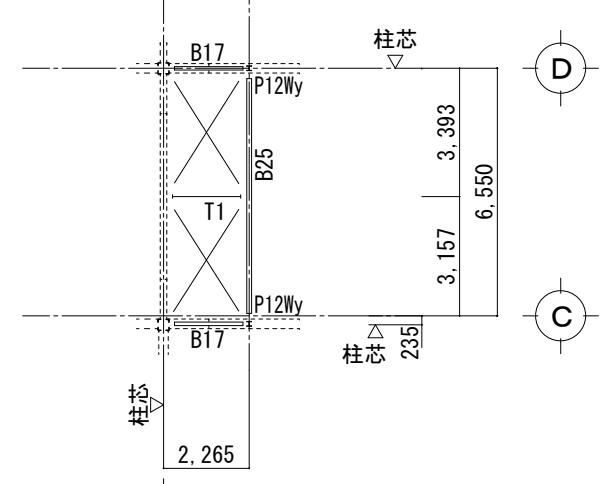
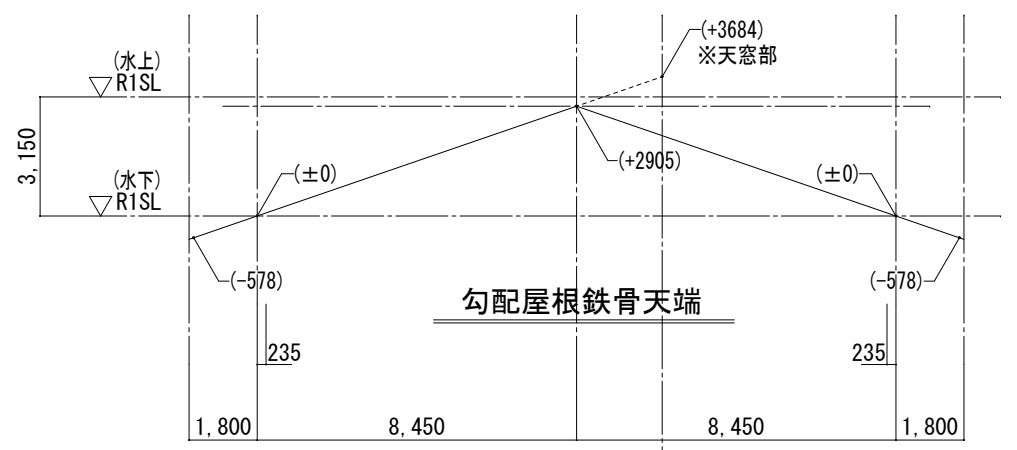
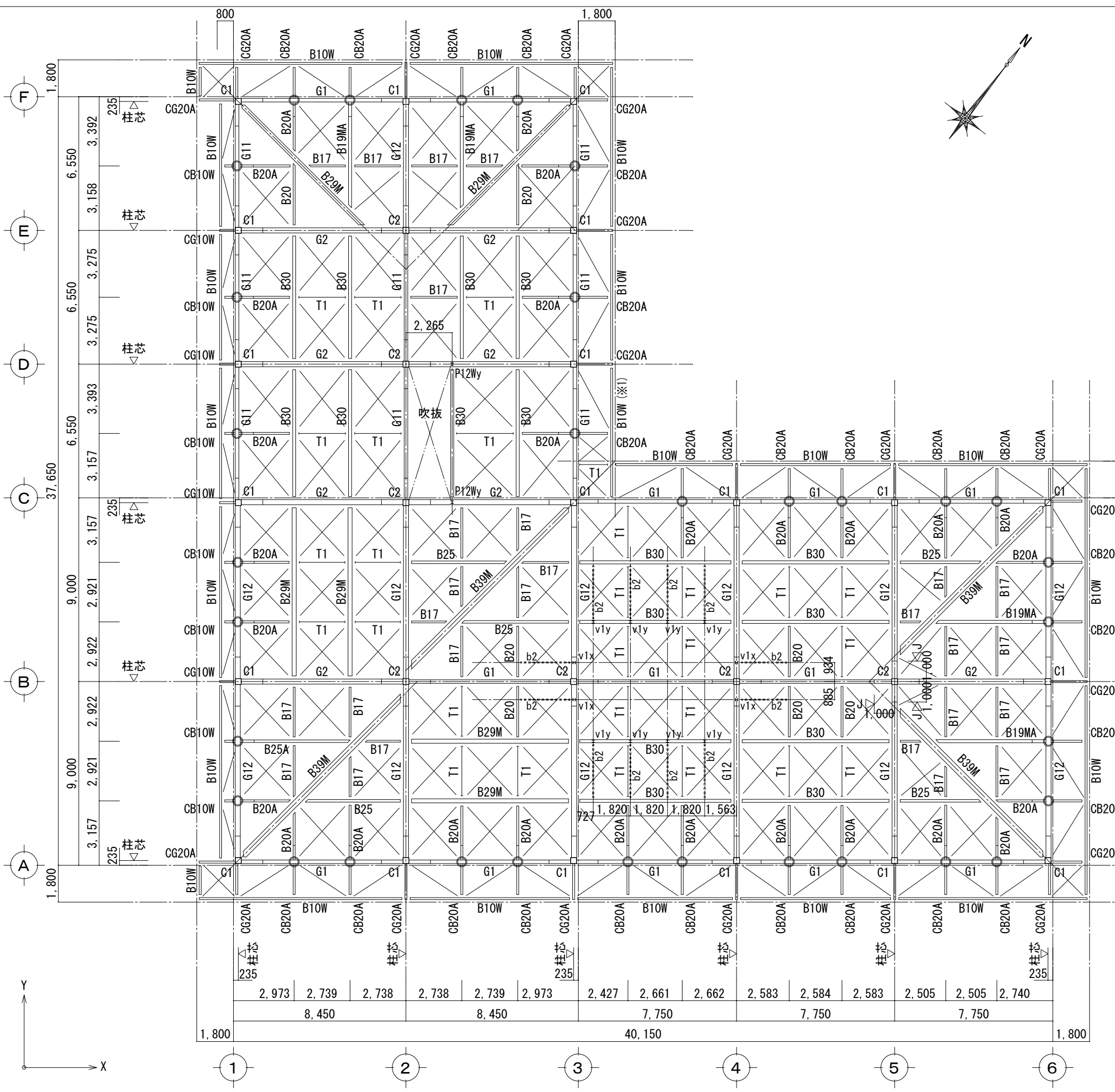


1階伏図 (A3)S=1/200

- 特記なき限り下記による
- 1FL=設計GL (SGL)+200 [SGL=K. B. M. +0.00m]
 - 基礎梁、礎柱天端 ; 1FL-300 <SGL-100>
()内は1FLからの基礎梁天端寸法を示す。
・基礎梁天端は土間コン天端までの増打ちを標準とする。
 - 柱脚B. PL下端 ; 1FL-250 <SGL-50>
 - スラブ天端 ; 1FL-30
< >内は1FLからのスラブ天端を示す。
 - 土間コンクリート配筋 (1F共通) ;
ア 150タテヨコD13@200 (ダブル)
・土間コン下は、十分な転圧を行うよう注意すること。
 - 土間コンクリート天端
 - 土間コンクリート天端 ; 1FL-30
 - 土間コンクリート天端 ; 1FL-60
 - 土間コンクリート天端 ; 1FL-70
 - 土間コンクリート天端 ; 1FL-150
 - 土間コンクリート天端 ; 1FL-950
 - 腰壁 ア 170 (1FL+100天端)
タテヨコD13@200 (シングル)
・柱廻りはア 105とし、柱鉄骨とのクリアランス10mmを確保すること。

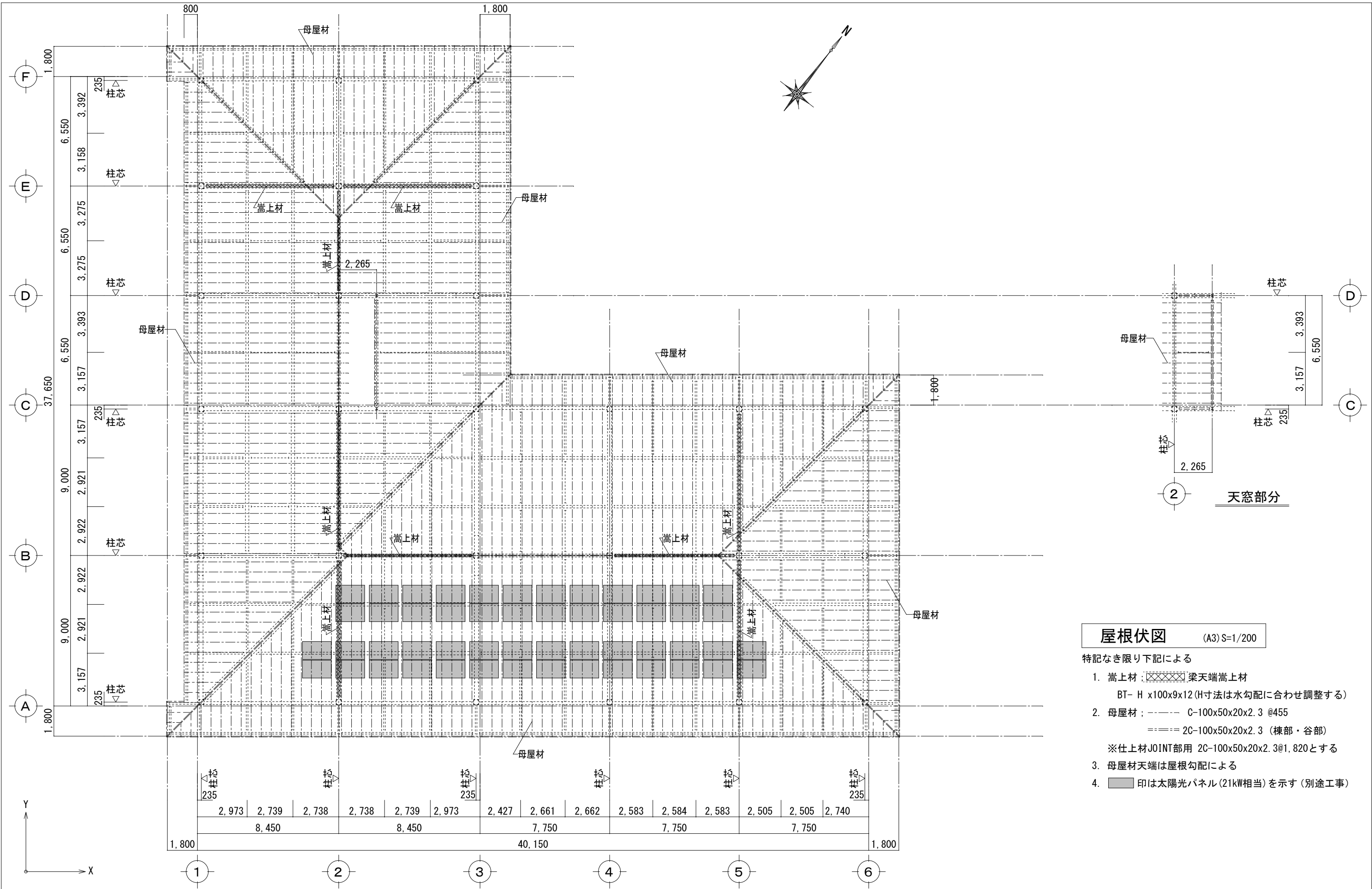
Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)



R階伏図 (A3)S=1/200

- 特記なき限り下記による
1. 基準レベルは R1SL(水下) = 1FL+3,600 とする
 2. 梁勾配は水勾配による
()内は R1SL(水下)からの梁天端寸法を示す
 3. 梁JOINT位置は柱芯から
X方向; 1,200、Y方向; 1,200とする(軸組図参照)
J▷印は梁JOINT位置を示す
 4. T材取付レベルは、取付く梁天端-50~-100mmとする
 5. 水平ブレース; H16 1-M16(T. B付) (R階屋根全面)
※各梁ウェブ芯を結び接合すること
 6. 屋根材; 金属屋根(横葺)[母屋+下地板貼] (R階屋根全面)
・母屋材; C-100x50x20x2.3@455
 7. ⊙印は、小梁剛接合を示す
※梁JOINTを設ける場合は、直交梁芯から800mmとする
 8. []内は、下段梁(耐風梁等)を示す
 9. (※1)印小梁は、屋根水勾配に合わせて中間折れ形状とする
 10. v1x, v1y, b2は天井受フレーム振れ止め材を示す。
・b2は水平ブレースと干渉しないよう、取付く小梁下フツに配置する
・v1xはH鋼材X方向強軸を示し、v1yはH鋼材Y方向強軸を示す

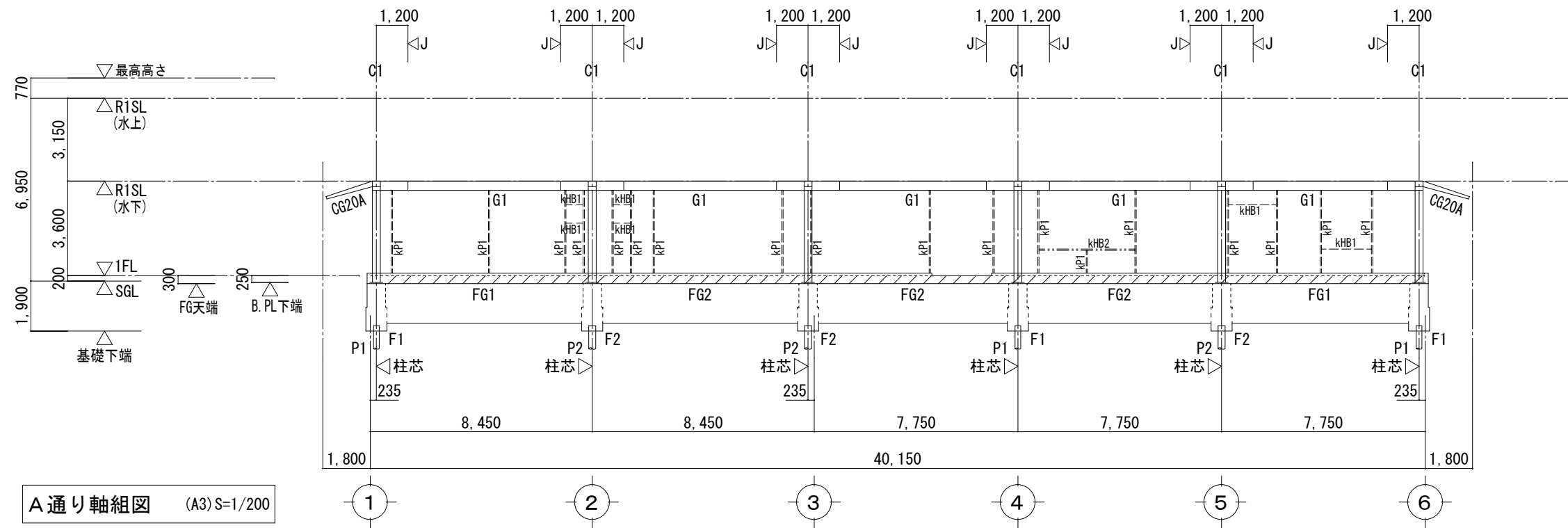
Y・M・R 建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)



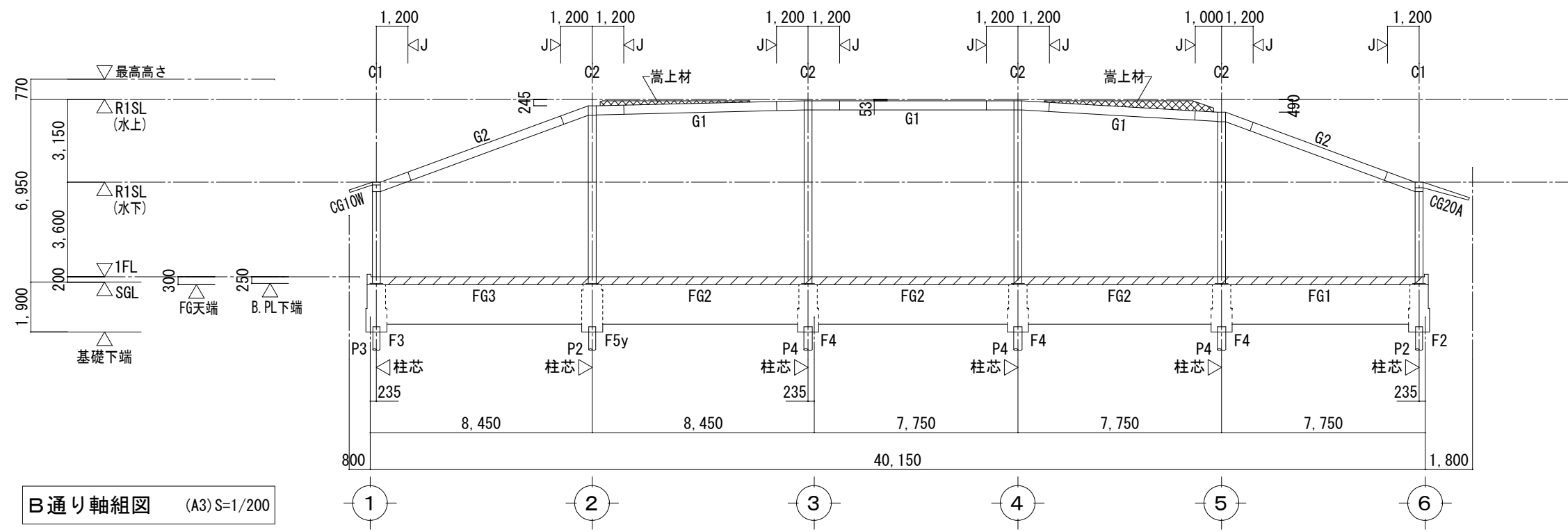
屋根伏図 (A3)S=1/200

- 特記なき限り下記による
- 嵩上材: 梁天端嵩上材
BT- H x100x9x12 (H寸法は水勾配に合わせて調整する)
 - 母屋材: C-100x50x20x2.3 @455
 2C-100x50x20x2.3 (棟部・谷部)
※仕上材JOINT部用 2C-100x50x20x2.3@1,820とする
 - 母屋材天端は屋根勾配による
 - 印は太陽光パネル(21kW相当)を示す(別途工事)

Y・M・R-建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)





A通り軸組図 (A3) S=1/200



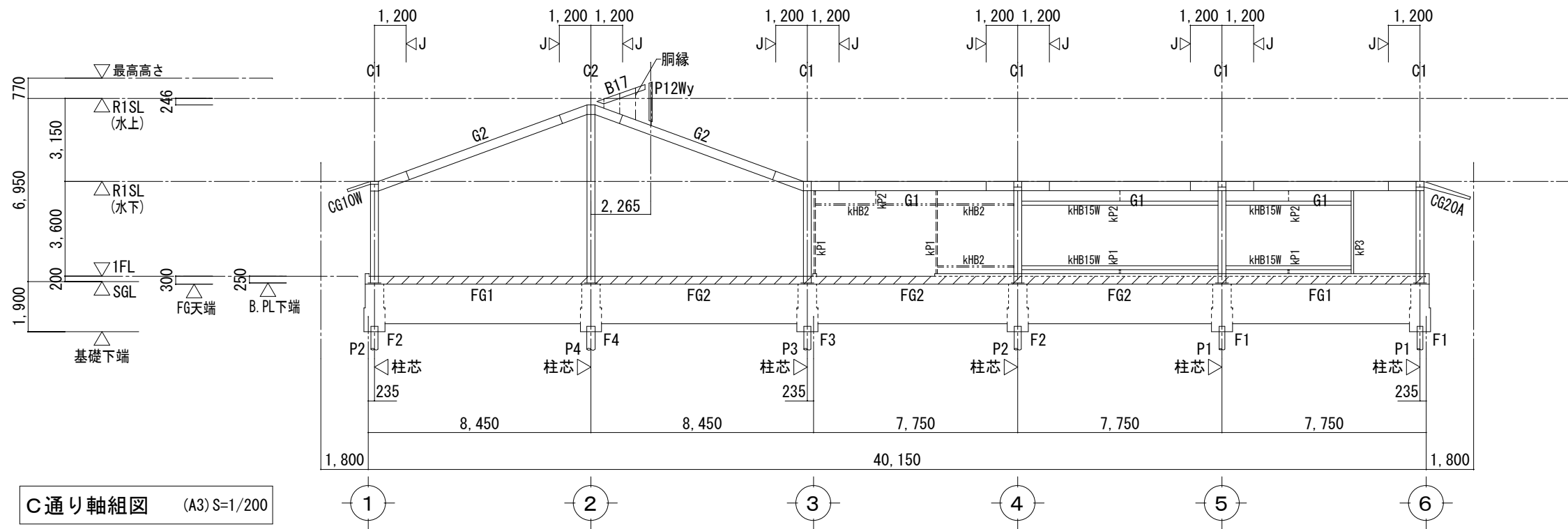
B通り軸組図 (A3) S=1/200

共通事項

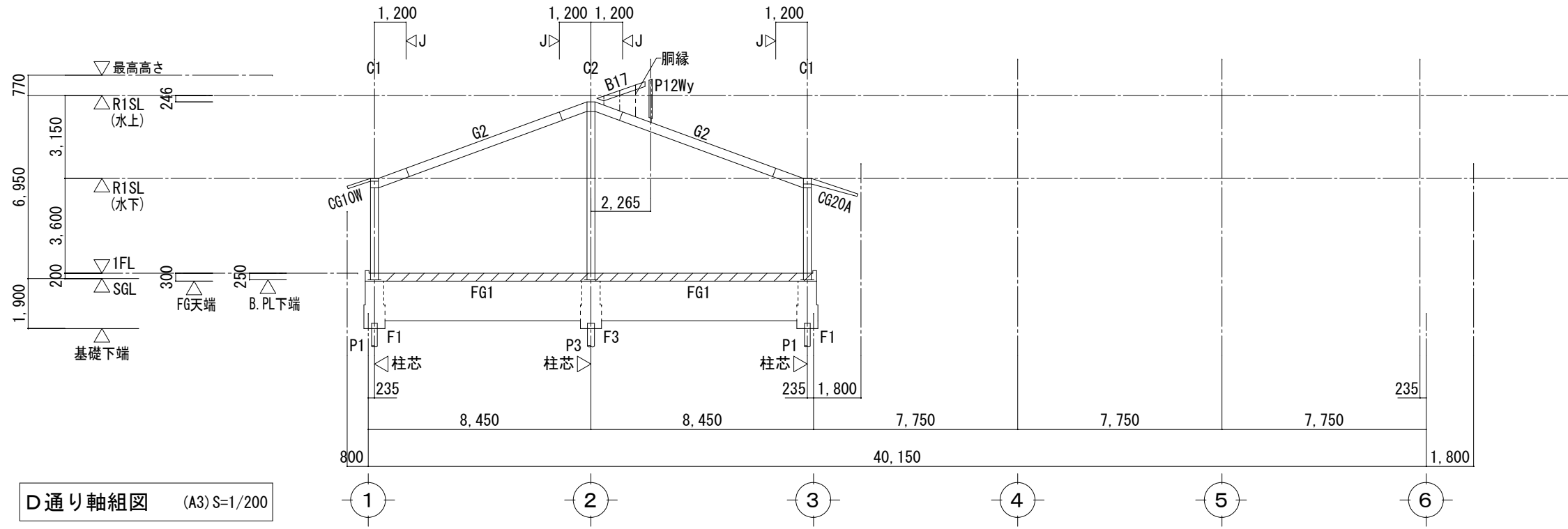
特記なき限り下記による

1. SGLは設計GLを示す。(設計GL=TP 24.33m)
2. 基礎梁・礎柱天端; 1FL-300
3. 鉄骨梁天端; 図示または水勾配による。
4. B. PL下端; 1FL-250
5. <J 印は、鉄骨梁JOINT位置を示す。
(柱芯から1,200を標準とする。)
6. 外壁; 押出成形セメント版 厚60
(“k”符号は開口補強材を示す)
7.  印は増打ちを示す。
(基礎梁天端は土間コノ天端までの増打を標準とする。)
8.  印は嵩上材 (BT-H x100x9x12) を示す。
(H寸法は、水勾配に合わせ調整する。)

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)



C通り軸組図 (A3) S=1/200



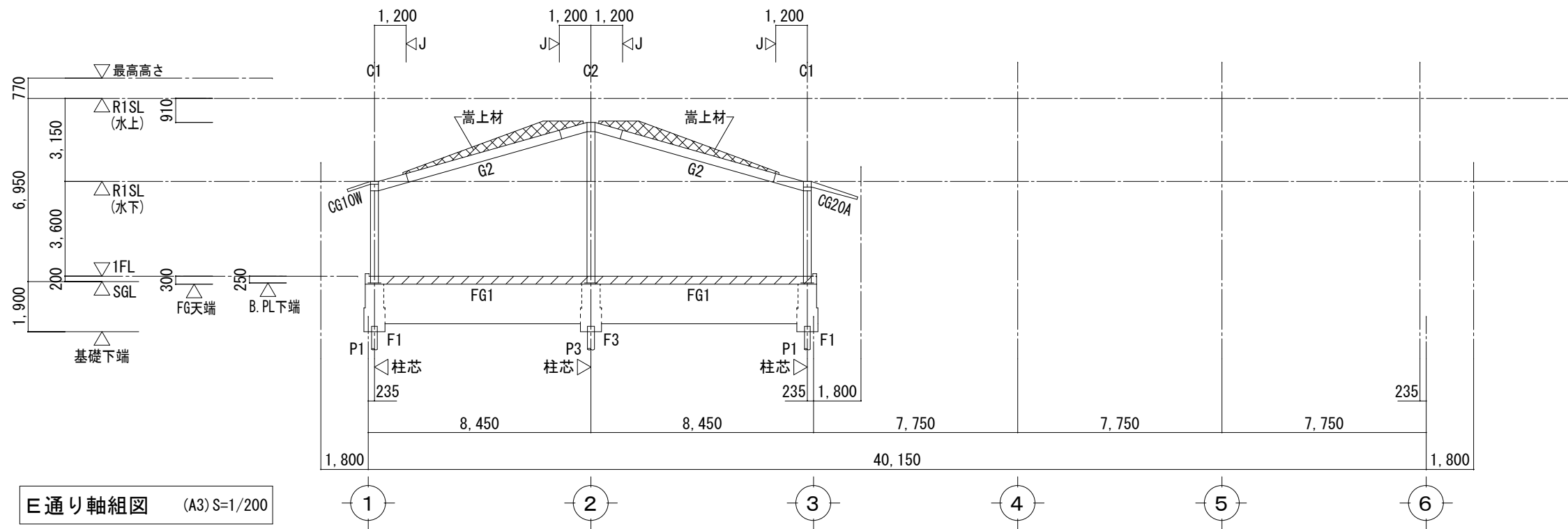
D通り軸組図 (A3) S=1/200

共通事項

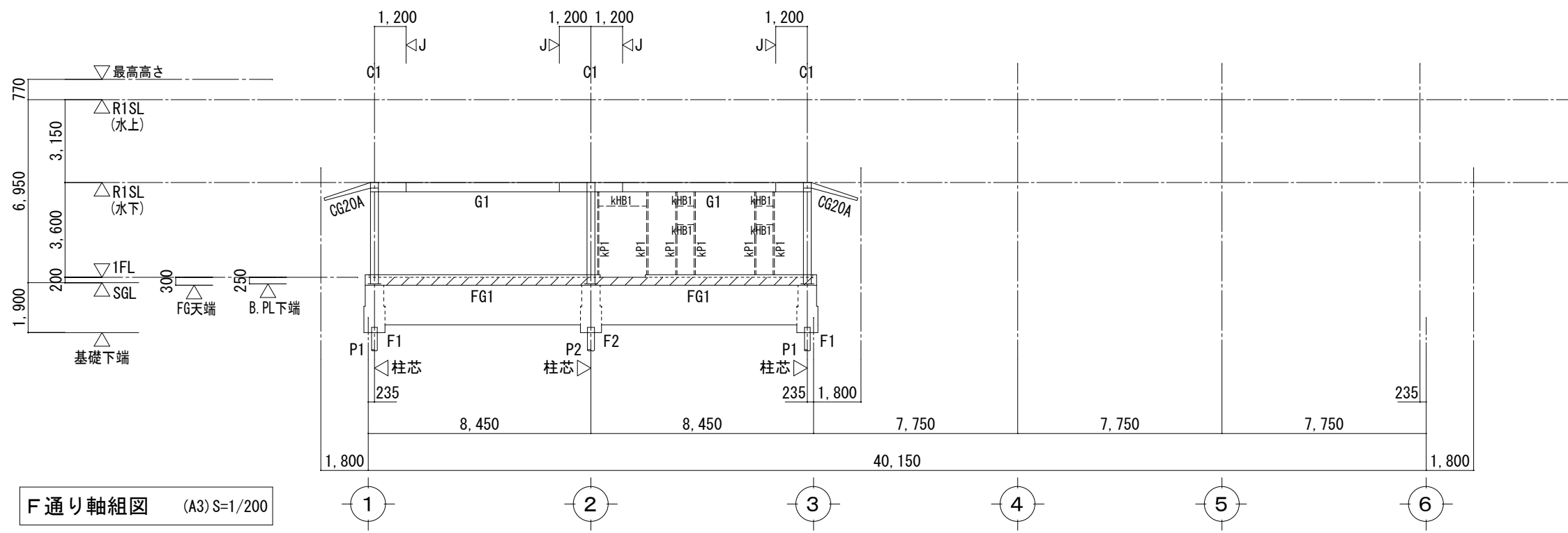
特記なき限り下記による

- 1. SGLは設計GLを示す。(設計GL=TP 24.33m)
- 2. 基礎梁・礎柱天端; 1FL-300
- 3. 鉄骨梁天端; 図示または水勾配による。
- 4. B. PL下端; 1FL-250
- 5. ◁J印は、鉄骨梁JOINT位置を示す。
(柱芯から1,200を標準とする。)
- 6. 外壁; 押出成形セメント版 厚60
(“k”符号は開口補強材を示す)
胴縁(天窓部外壁); C-100x50x20x2.3@600
- 7. [Hatched Box]印は増打ちを示す。
(基礎梁天端は土間コノ天端までの増打を標準とする。)
- 8. [Cross-hatched Box]印は嵩上材(BT-H x100x9x12)を示す。
(H寸法は、水勾配に合わせ調整する。)

Y・M・R-建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)



E通り軸組図 (A3) S=1/200



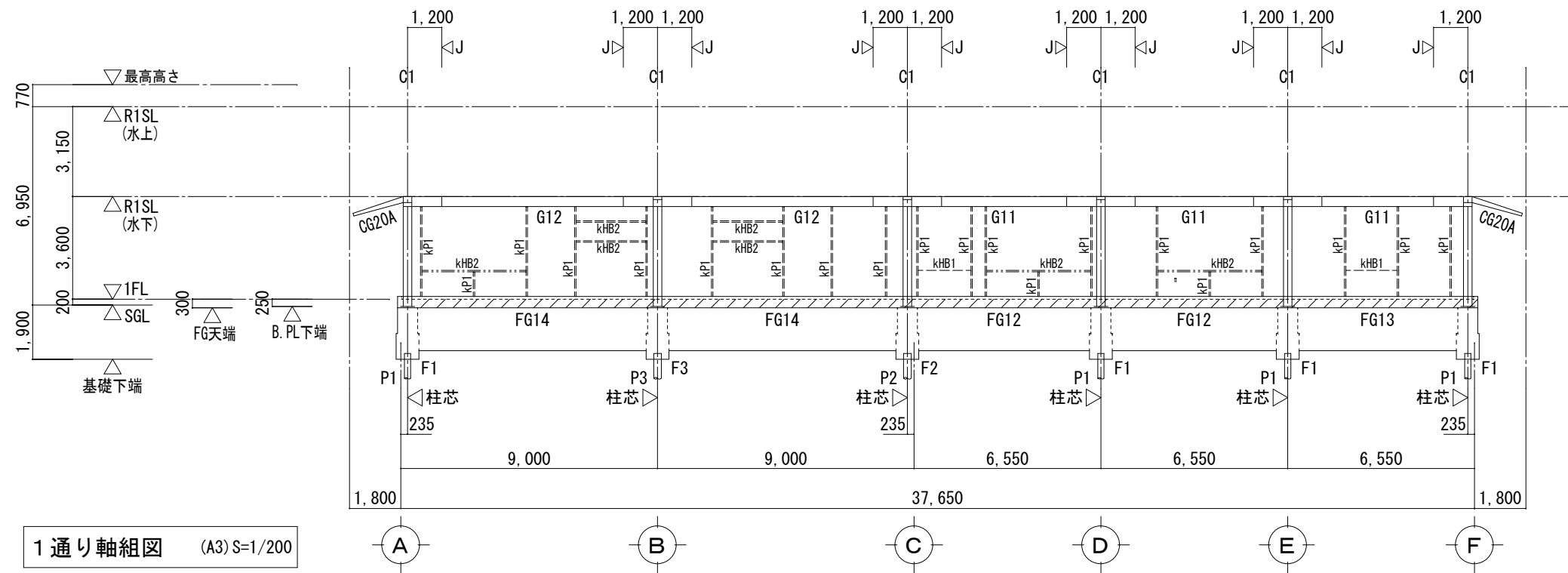
F通り軸組図 (A3) S=1/200

共通事項

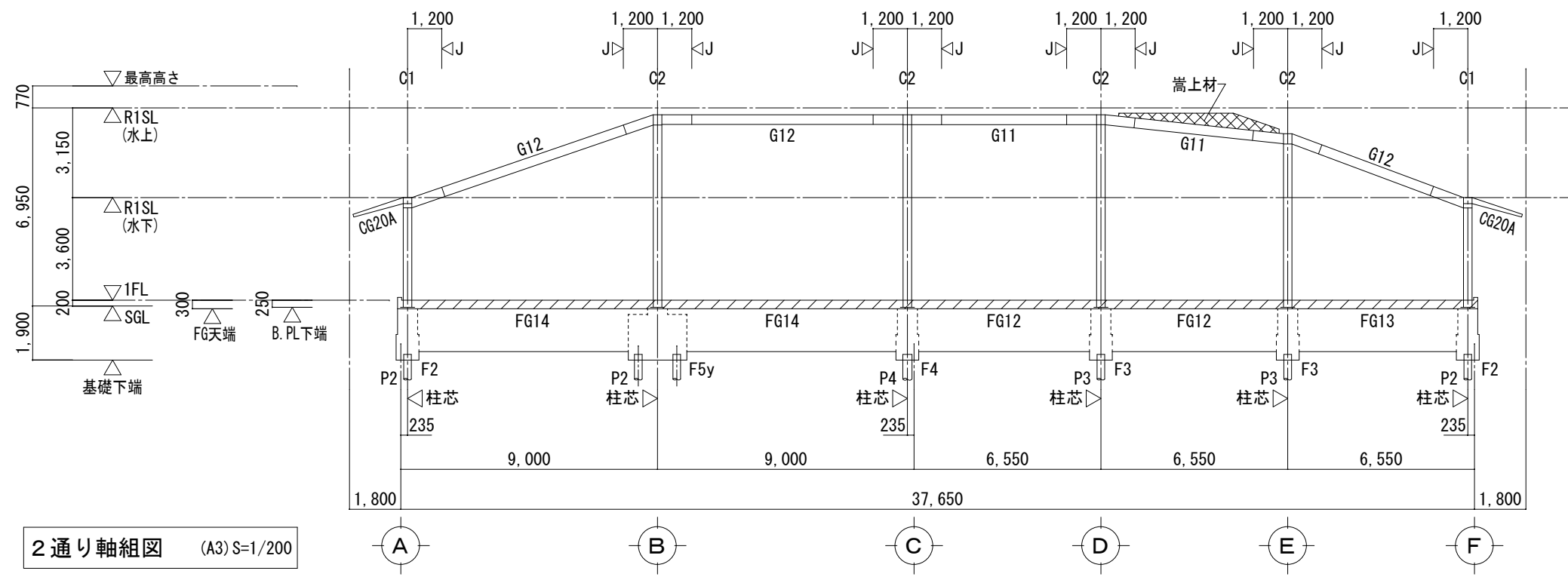
特記なき限り下記による

1. SGLは設計GLを示す。(設計GL=TP 24.33m)
2. 基礎梁・礎柱天端; 1FL-300
3. 鉄骨梁天端; 図示または水勾配による。
4. B. PL下端; 1FL-250
5. ◁J 印は、鉄骨梁JOINT位置を示す。
(柱芯から1,200を標準とする。)
6. 外壁; 押出成形セメント版 厚60
(“k”符号は開口補強材を示す)
7. 印は増打ちを示す。
(基礎梁天端は土間コン天端までの増打を標準とする。)
8. 印は嵩上材 (BT- H x100x9x12) を示す。
(H寸法は、水勾配に合わせ調整する。)

Y・M・R-建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)



1通り軸組図 (A3) S=1/200



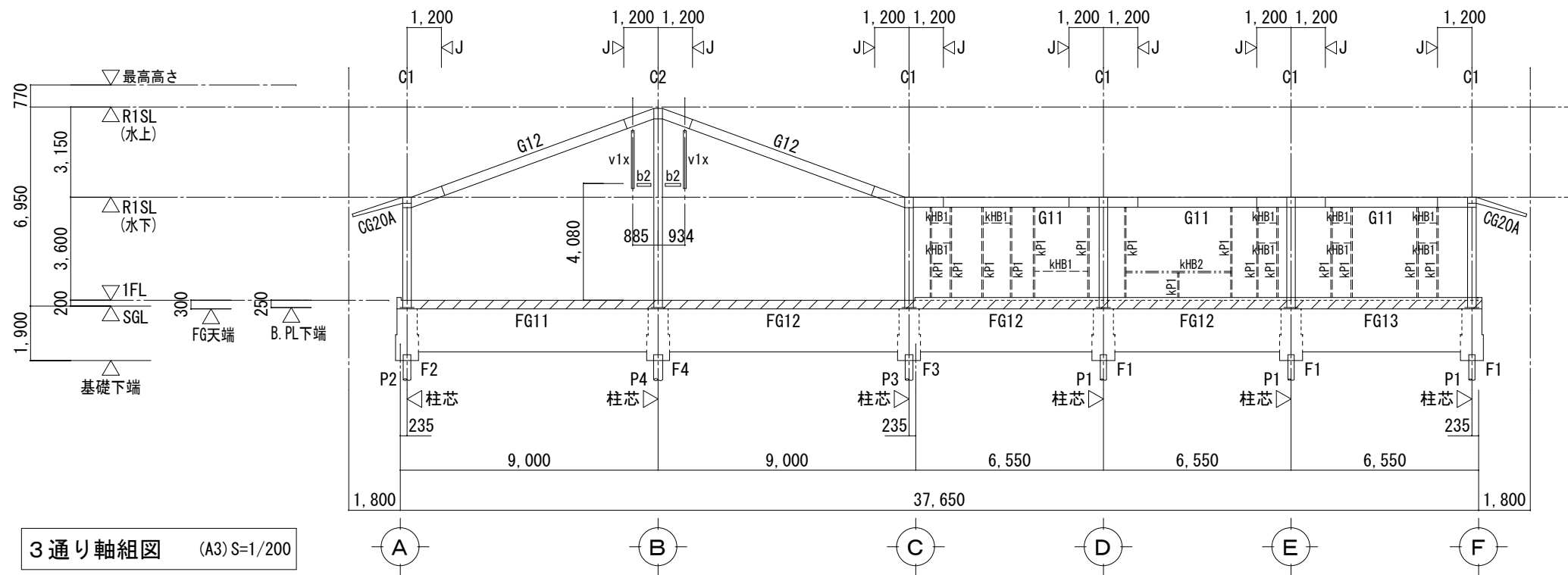
2通り軸組図 (A3) S=1/200

共通事項

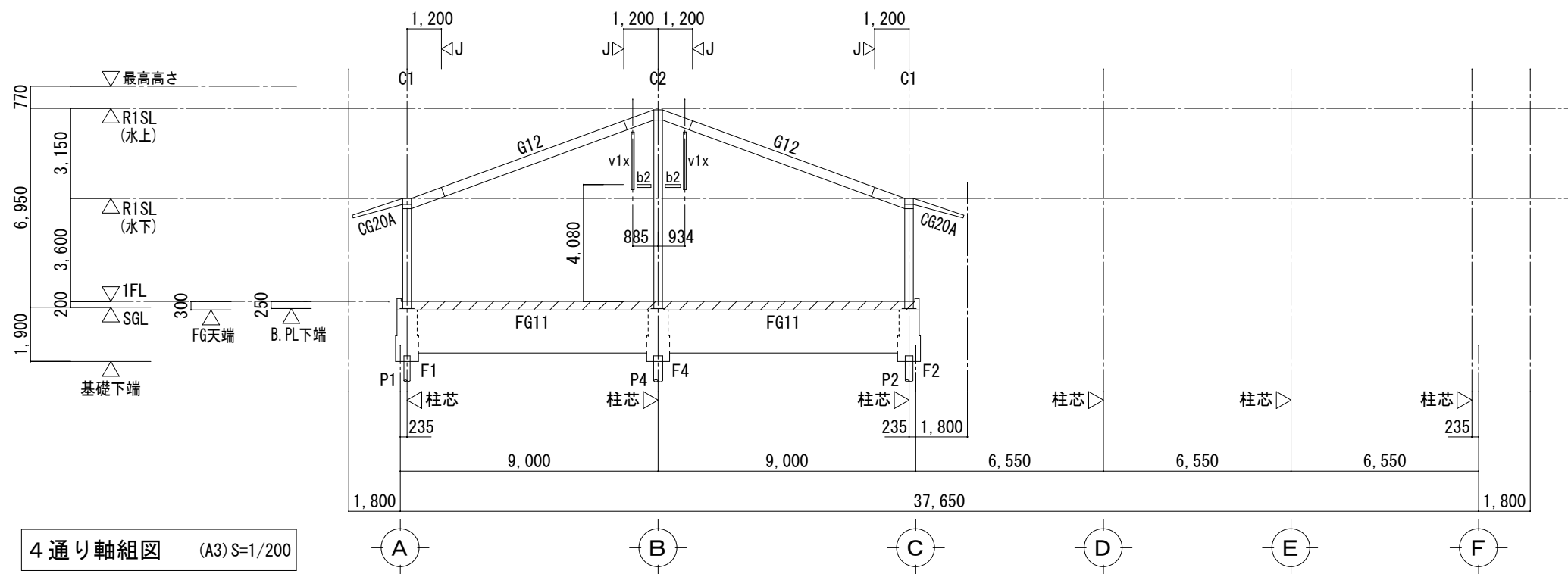
特記なき限り下記による

- | | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. SGLは設計GLを示す。(設計GL=TP 24.33m) 2. 基礎梁・礎柱天端; 1FL-300 3. 鉄骨梁天端; 図示または水勾配による。 4. B. PL下端; 1FL-250 | <ul style="list-style-type: none"> 5. ◁J印は、鉄骨梁JOINT位置を示す。
(柱芯から1,200を標準とする。) 6. 外壁; 押出成形セメント版 厚60
(“k”符号は開口補強材を示す) | <ul style="list-style-type: none"> 7. 印は増打ちを示す。
(基礎梁天端は土間コノ天端までの増打を標準とする。) 8. 印は嵩上材 (BT- H x100x9x12) を示す。
(H寸法は、水勾配に合わせ調整する。) |
|--|--|--|

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)





3通り軸組図 (A3) S=1/200



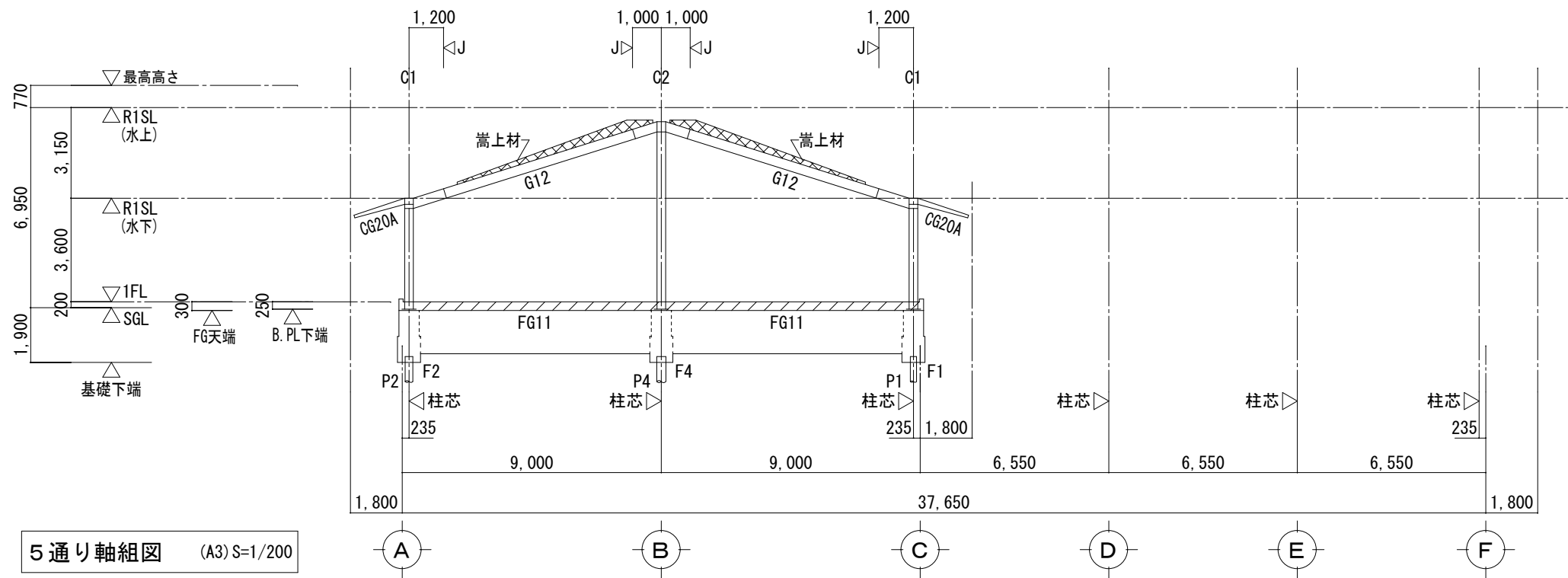
4通り軸組図 (A3) S=1/200

共通事項

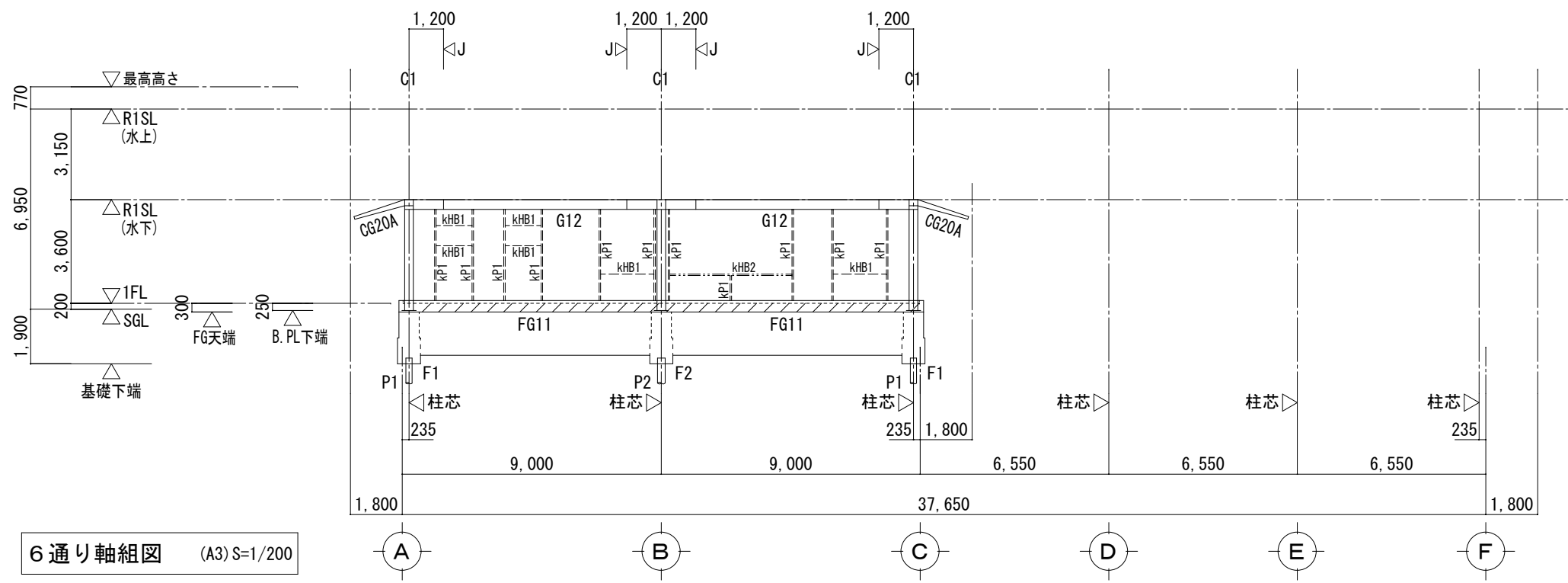
特記なき限り下記による

1. SGLは設計GLを示す。(設計GL=TP 24.33m)
2. 基礎梁・礎柱天端; 1FL-300
3. 鉄骨梁天端; 図示または水勾配による。
4. B. PL下端; 1FL-250
5. ◁J印は、鉄骨梁JOINT位置を示す。
(柱芯から1,200を標準とする。)
6. 外壁; 押出成形セメント版 厚60
(“k”符号は開口補強材を示す)
7. 印は増打ちを示す。
(基礎梁天端は土間コナ天端までの増打を標準とする。)
8. 印は嵩上材 (BT- H x100x9x12) を示す。
(H寸法は、水勾配に合わせ調整する。)

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)



5通り軸組図 (A3) S=1/200



6通り軸組図 (A3) S=1/200

共通事項

特記なき限り下記による

1. SGLは設計GLを示す。(設計GL=TP 24.33m)
2. 基礎梁・礎柱天端; 1FL-300
3. 鉄骨梁天端; 図示または水勾配による。
4. B. PL下端; 1FL-250
5. ◁J印は、鉄骨梁JOINT位置を示す。
(柱芯から1,200を標準とする。)
6. 外壁; 押出成形セメント版 厚60
(“k”符号は開口補強材を示す)
7. 印は増打ちを示す。
(基礎梁天端は土間コナ天端までの増打を標準とする。)
8. 印は嵩上材 (BT-H x100x9x12) を示す。
(H寸法は、水勾配に合わせ調整する。)

Y・M・R-建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)

杭リスト ※鋼管腐食代を1.0mmとする。

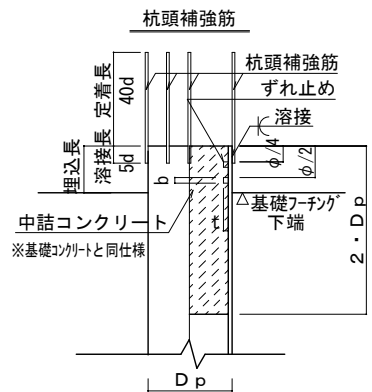
杭種	先端羽根付回転貫入鋼管杭							
杭工法	N-ECS工法(認定工法; TACP-0638 [砂質地盤(礫質含む)])							
杭継手	無溶接継手 ECS-MJ工法[GBRC性能証明 第19-07号]による。							
コンクリート強度	—							
鋼管	— STK490							
符号(呼称)	P 1 (216.3 B)	P 2 (267.4 B)	P 3 (267.4 C)	P 4 (318.5 B)				
種別	t = 8.2	t = 8.0	t = 9.3	t = 10.3				
杭径	216.3 φ	267.4 φ	267.4 φ	318.5 φ				
実長	3.00 m	3.00 m	3.00 m	3.00 m				
種別	t = 8.2	t = 8.0	t = 8.0	t = 10.3				
杭径	216.3 φ	267.4 φ	267.4 φ	318.5 φ				
実長	6.00 m	6.00 m	6.00 m	6.00 m				
種別								
杭径								
実長								
種別								
杭径								
実長								
杭実長	9.0 m	9.0 m	9.0 m	9.0 m				
先端羽根径 [Dw]	688.4	798.0	880.6	936.2				
長期許容支持力	530 kN/本	712 kN/本	867 kN/本	981 kN/本				
総本数	11	9	4	4				合計 28 セット

基礎リスト

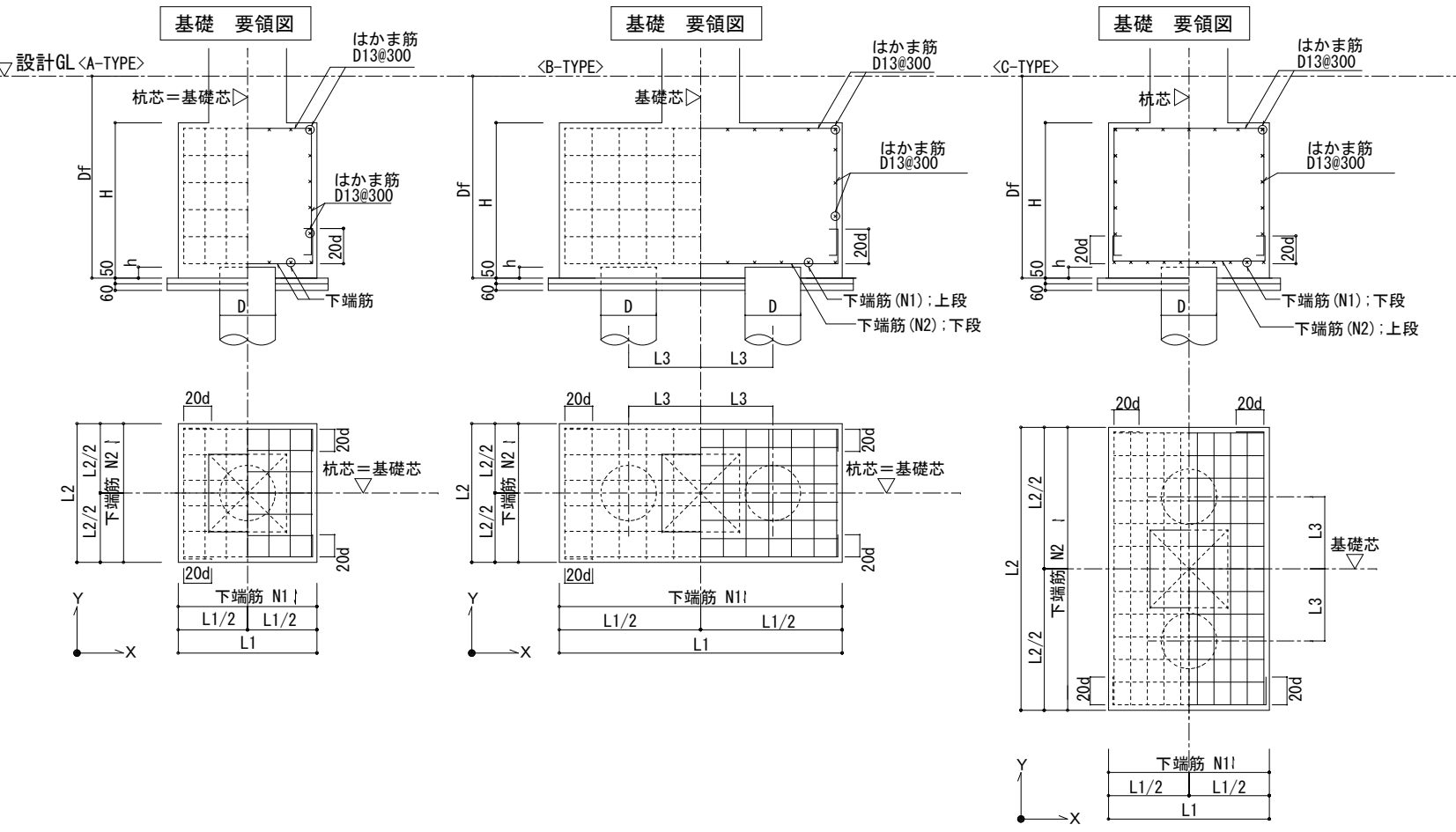
符号	杭頭径 D	H (mm)	Df (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)	L3 (mm)	h (mm)	はかま筋		下端筋		TYPE	備考
								N1 ↓	N2 ←	N1 ↓	N2 ←		
F1	216.3 φ	900	1,900	800	800	-	200	D13@300以下	D13@300以下	4-D13	4-D13	A -TYPE	
F2	267.4 φ	900	1,900	800	800	-	200	D13@300以下	D13@300以下	4-D13	4-D13	A -TYPE	
F3	267.4 φ	900	1,900	800	800	-	250	D13@300以下	D13@300以下	4-D13	4-D13	A -TYPE	
F4	318.5 φ	900	1,900	800	800	-	200	D13@300以下	D13@300以下	4-D13	4-D13	A -TYPE	
F5y	267.4 φ	1,600	1,900	800	2,050	675	200	D13@300以下	D13@300以下	6-D16	11-D13	C -TYPE	N1方向下端筋を下段配置とする

杭頭補強筋リスト 使用材料 鉄筋 D13:SD295

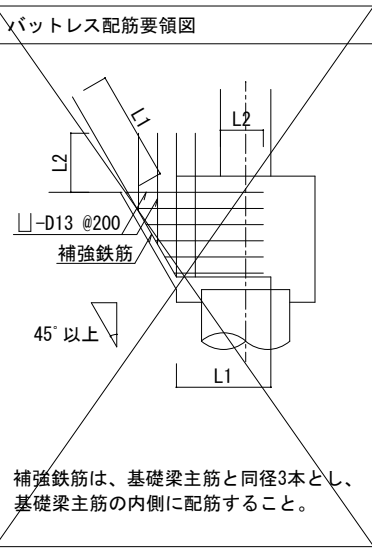
符号	杭径φ	埋込長	ひげ鉄筋	溶接長	定着長
P 1	216.3	200 mm	6-D13	65 mm	520 mm
P 2	267.4	200 mm	6-D13	65 mm	520 mm
P 3	267.4	200 mm	6-D13	65 mm	520 mm
P 4	318.5	200 mm	6-D13	65 mm	520 mm



※鋼管杭の中詰コンクリート高さは[2・Dp]とし、
ずれ止め(厚さt=9mm, 幅b=25mm)を2段取付ける。

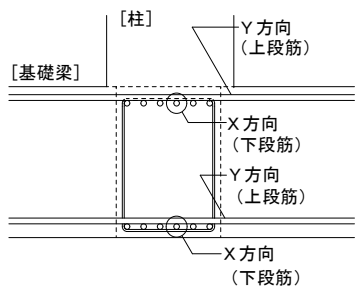


- 使用材料 ※特記なき限り各リスト共通とする。
- コンクリート Fc24 (基礎・基礎梁・1F床)
Fc24 (土間コンクリート)
Fc18 (捨コンクリート)
 - 鉄筋 SD295 (D10~D16)
SD345 (D19~D22)
※D19以上はガス圧接とする。
 - 鉄骨 BCR295 (柱) ※柱脚は別図参照
SN400B (大梁)
SS400 (小梁・間柱・ブレース他)
SN490C・B (サ・ヤラム[通・内サ・ヤ])
SSC400 (母屋・胴縁)
 - 接合ボルト F10T, S10T (高力ボルト)
F4T (中ボルト)
SS400 (アンカボルト[間柱等])

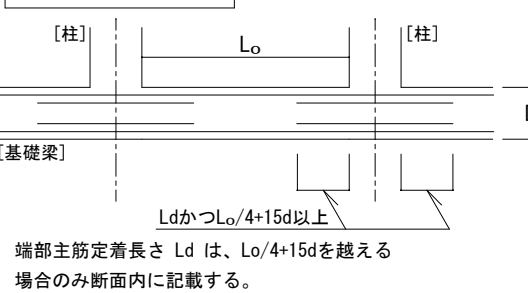


符号	FG 1			FG 2		FG 3			FG 11			FG 12		FG 13			
	1, 3, 6 端	中央	2, 5 端	端部	中央	1 端	中央	2 端	A, C 端	中央	B 端	端部	中央	E 端	中央	F 端	
断面																	
B × D	400 × 1, 500			400 × 1, 500		400 × 1, 500			400 × 1, 500			400 × 1, 500		400 × 1, 500			
上端筋	3-D22	3-D22	4-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	6-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	3-D22	4-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
s t																	
腹筋																	
符号	FG 14			FB 1		FB 2		FB 3									
断面																	
B × D	400 × 1, 500			350 × 1, 500		300 × 600		350 × 800									
上端筋	5-D22	4-D22	6-D22	3-D22	3-D22	4-D19	4-D19	3-D22	3-D22								
下端筋	4-D22	6-D22	6-D22	3-D22	6-D22	4-D19	4-D19	3-D22	5-D22								
s t				□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200									
腹筋						2-D13		2-D13									

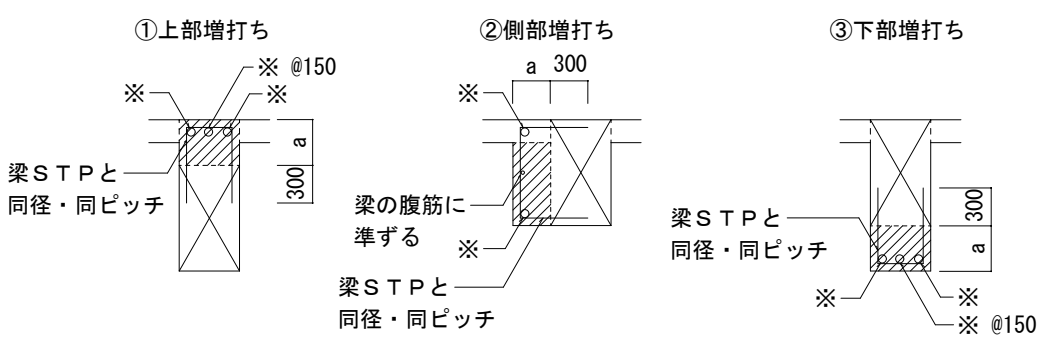
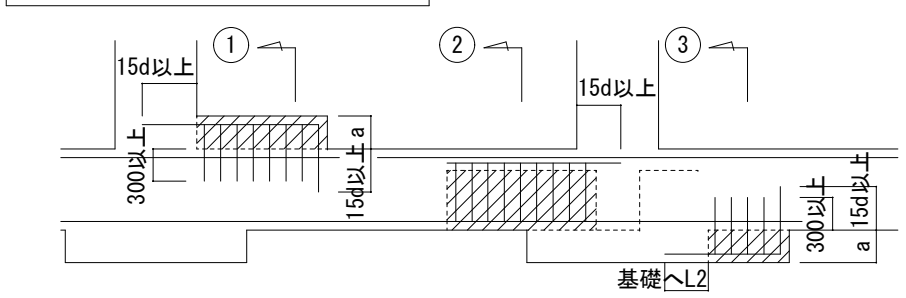
基礎梁の方向別主筋位置の設定



端部主筋定着長さ



基礎梁増打補強要領図



$a < 70$ の場合 補強筋不要
 $70 \leq a \leq 200$ の場合 ※印は D13 とする
 $a > 200$ の場合 ※印は D16 とする

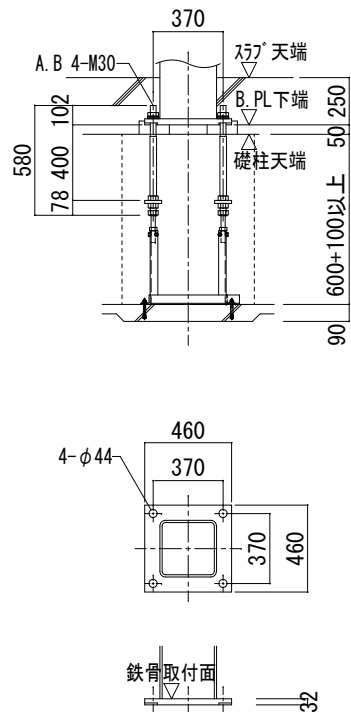
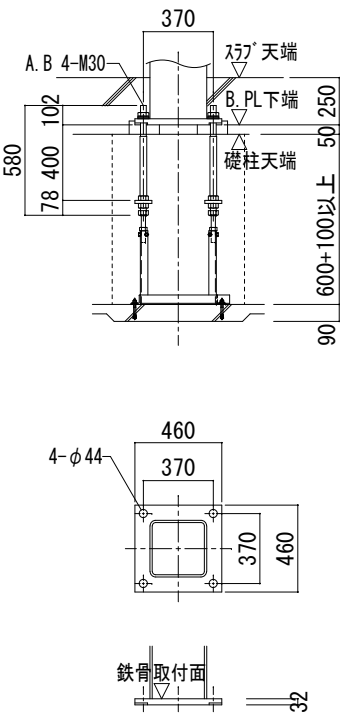
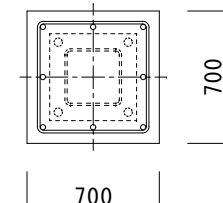
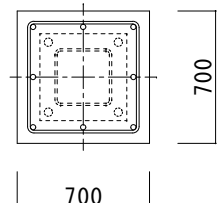
注記) 1. 側部増打ちにおいて、a寸法が200mmを超える場合は、※印上端筋、下端筋とも2列以上配置する。(※@150)
 2. 増打ち部補強あばら筋は、梁STPの材質に係らず、SD295 とする。

鉄骨柱リスト

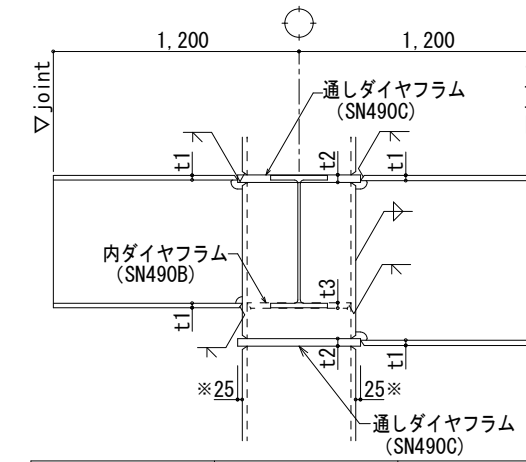
縮尺=1/40

特記なき限り下記による

- 鉄骨材質：主材 BCR295、外ダイヤフラム SN490C、内ダイヤフラム SN490B
- 柱脚部材質：ハイペースNEO工法（BCJ評定-ST0059）に準じる。
- < >内は各柱の有効細長比の最大値を示す。

符号	C 1	C 2		
—	—	—		
1階	□-300×300×12 <42.6>	□-300×300×12 <66.0>		
柱脚	 <p>ハイペースNEO工法：EB300-4-30</p>	 <p>ハイペースNEO工法：EB300-4-30</p>		
ベースプレート	PL-32×460×460 (SN490B)	PL-32×460×460 (SN490B)		
アンカーボルト	4-M30 (HAB) L=400	4-M30 (HAB) L=400		
柱型 (礎柱)				
立上り筋	8-D19 (SD345) ※頂部フック無	8-D19 (SD345) ※頂部フック無		
フープ筋	□-D13@150 (SD295)	□-D13@150 (SD295)		
備考	TOP HOOP □-D13 (礎柱天端・二重巻)	TOP HOOP □-D13 (礎柱天端・二重巻)		

柱-梁仕口詳細図

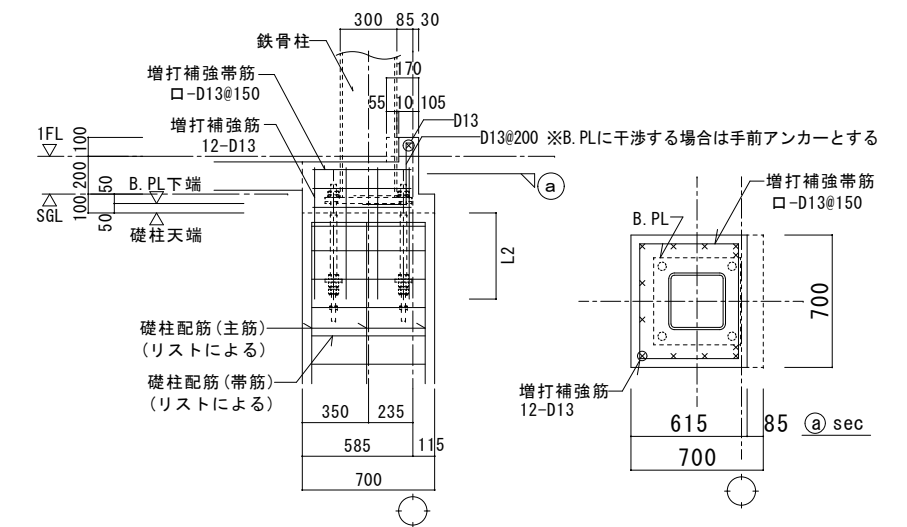


t1 (mm)	t2 (mm)	t3 (mm)
7~9	16	12
10~12	19	16
13~16	22	19
17~19	25	22
20~22	28	25
23~25	32	28
26~28	36	32

特記なき限り下記による。

- 通しダイヤフラムの板厚は、取り合う柱の板厚の1サイズUP以上、かつ、取り合う梁フランジ板厚に応じて上表に示す板厚以上とする。
- 内ダイヤフラムの板厚は、取り合う梁フランジ板厚に応じて上表に示す板厚以上とする。
- 内ダイヤフラムと梁フランジは板厚心合わせとする。
- 仕口部の柱板厚は取り合う柱板厚以上とする。
- ※寸法は取り合う柱板厚が28mm以上の場合、30mmとする。
- 梁せいによるずれが生ずる場合（中幅梁+細幅梁接合部等）は、ずれを含めた必要厚さに6mm程度加えた厚さをダイヤフラム厚さ(t2, t3)とする。

柱脚廻り増打部配筋詳細図



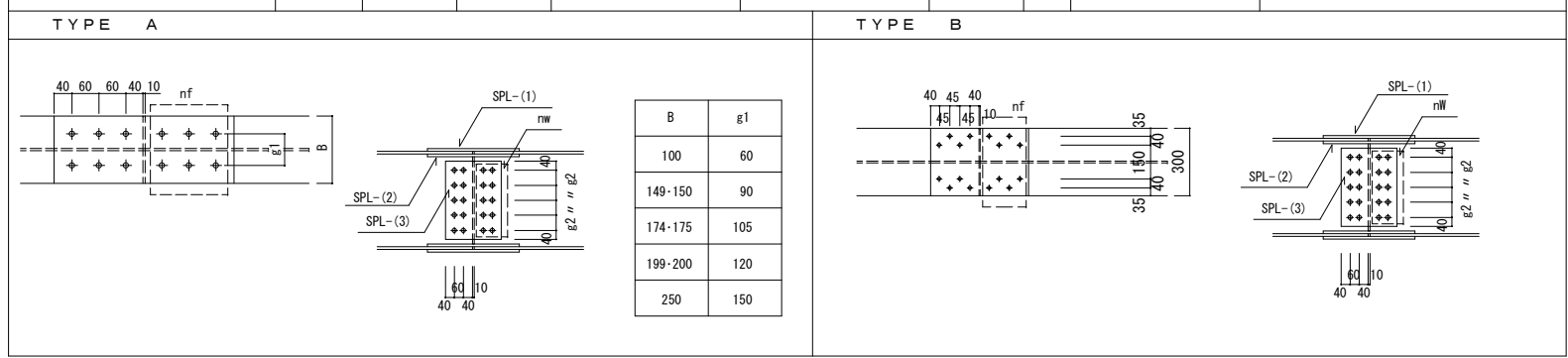
Y・M・R 建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)

大梁リスト		・鉄骨材質：SN400B、高力ボルト(H.T.B.)；S10T ・各部材のピン接合の仕様については梁JOINTリスト備考欄「ピン接合」参照。					
階	符号	R G 1		R G 2			
R階	全断面	H -350x175x 7x11	全断面	H -340x250x 9x14			
階	符号	R G 1 1		R G 1 2			
R階	全断面	H -350x175x 7x11	全断面	H -340x250x 9x14			
階	符号						
R階							

梁JOINTリスト

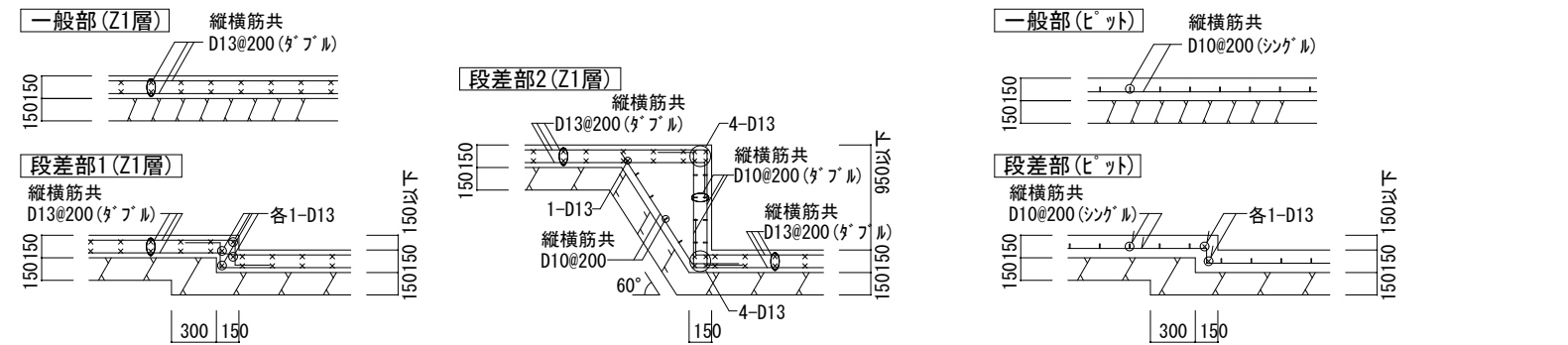
・鉄骨種別はSN400B、HTBはS10Tとする。 ・梁継手位置は柱芯から1,200mmを標準とする。(軸組図参照)
 ・継手はSCSS-H97に準ずる。

部材(中央断面)	TYPE	HTB	FLANGE			WEB			備考
			nf	SPL-(1)	SPL-(2)	nw	g2	SPL-(3)	
H -194x150x 6x 9	A	M20	4	SPL- 9x150x290	2SPL- 9x 60x290	2x 1	60	2SPL- 6x140x170	ピン接合；G.PL- 9 HTB 2-M16
H -200x100x5.5x8	A	M16	4	SPL-16x100x290	—————	2x 1	60	2SPL- 6x140x170	ピン接合；G.PL- 6 HTB 2-M16
H -250x125x 6x 9	A	M16	6	SPL-12x125x410	—————	2x 2	90	2SPL- 6x170x290	ピン接合；G.PL- 9 HTB 3-M16
H -350x175x 7x11	A	M20	4	SPL- 9x175x290	2SPL- 9x 70x290	3x 1	90	2SPL- 6x260x170	ピン接合；G.PL- 9 HTB 4-M20
H -340x250x 9x14	A	M22	6	SPL-12x250x410	2SPL-12x100x410	3x 1	60	2SPL- 9x200x170	ピン接合；G.PL-12 HTB 3-M22



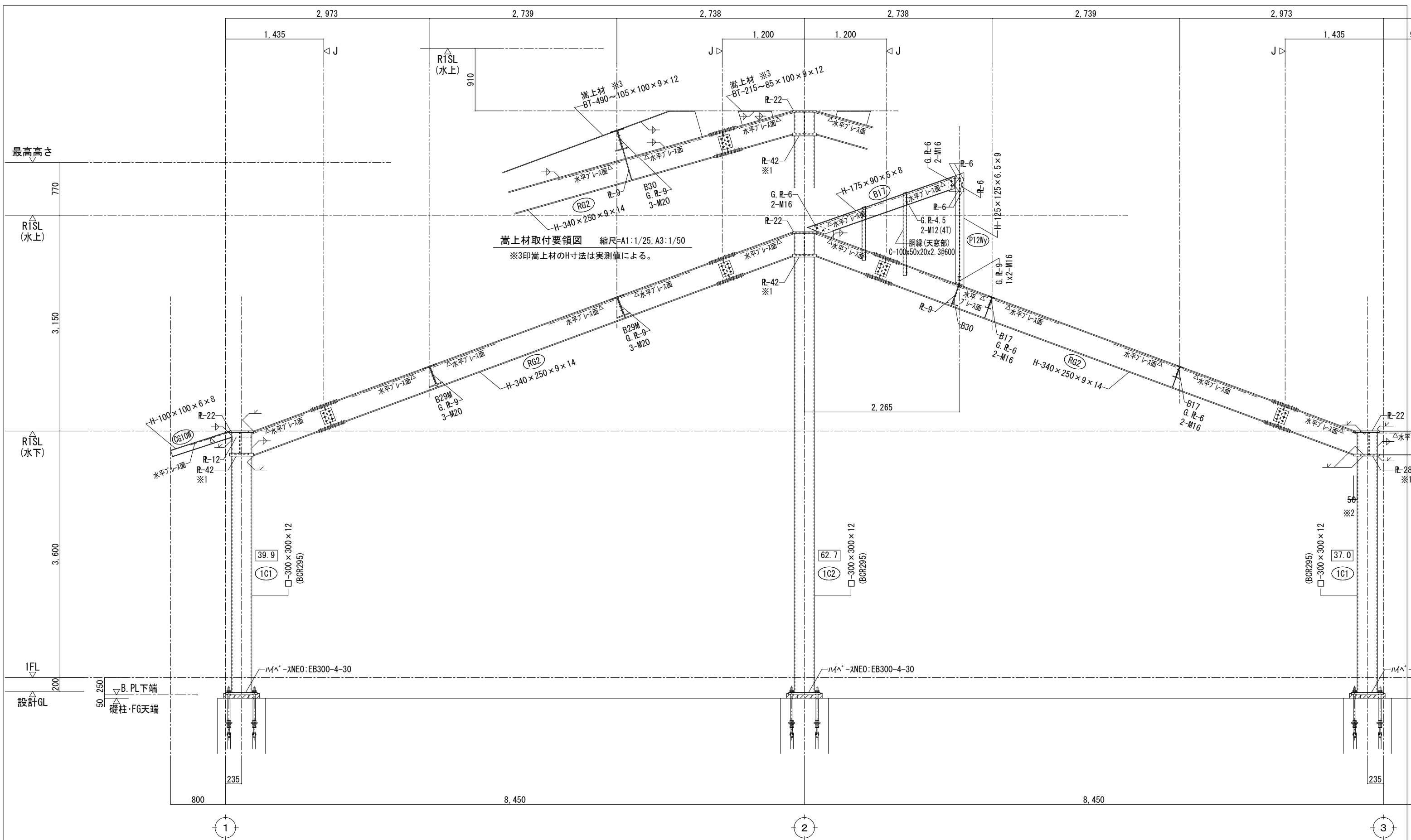
スラブリスト					
符号	厚さ	位置	主筋方向(短辺方向)	配力筋方向(長辺方向)	備考
S1	150	上端筋 下端筋	D13@200 D10@200	D10, D13@200 D10@200	・Z1層トイレ床

土間コンクリート配筋要領



鉄骨部材リスト		・鉄骨種別はSS400、HTBはS10Tとする ・片持ち梁(CG)等で、剛接合がある場合は梁JOINTリストによる				
符号	部材	WEB			備考	
		HTB	nw	G.R		
B10W	CG10W, CB10W	H-100x100x 6x 8	M16	1x 2	PL-6	CG, CB基端は溶接接合
B17		H-175x 90x 5x 8	M20	2	PL-6	
B20		H-200x100x5.5x 8	M20	2	PL-6	
B20A		H-200x100x5.5x 8	M16	2	PL-6	剛接合の場合は「梁JOINTリスト」参照
	CG20A, CB20A	BH-200~100x100x 6x 9	M16	2	PL-6	CG, CB基端は溶接接合 下記注記参照
B19MA		H-194x150x 6x 9	M16	2	PL-9	剛接合の場合は「梁JOINTリスト」参照
B25		H-250x125x 6x 9	M16	3	PL-9	
B25A		H-250x125x 6x 9	M16	3	PL-9	剛接合の場合は「梁JOINTリスト」参照
B30		H-300x150x6.5x 9	M20	3	PL-9	
B29M		H-294x200x 8x12	M20	3	PL-9	
B39M		H-390x300x10x16	M22	4	PL-12	
P12Wy		H-125x125x6.5x9	M16	1x 2	PL-9	符号末尾のyは鉄骨主軸Y方向を示す
H16		1-M16(T, B付)	M16	1	PL-9	水平ブレース
T1		[-100x50x 5x7.5	M16	1x 3	PL-6	つなぎ材、接合材 1/60
kP1		□-100x100x4.5 (STKR400)	M12(中ボルト)	1x 2	2PL-4.5	開口補強材、ダブルナット締め
kP2		C-100x50x20x2.3 (SSC400)	M12(中ボルト)	1x 2	PL-4.5	開口補強材、ダブルナット締め
kP3		H-100x100x 6x 8	M16	1x 2	PL-6	開口補強材
kHB1		C-100x50x20x2.3 (SSC400)	M12(中ボルト)	1x 2	PL-4.5	開口補強材(横使い)、ダブルナット締め
kHB2		□-100x100x4.5 (STKR400)	M12(中ボルト)	1x 2	2PL-4.5	開口補強材(横使い)、ダブルナット締め
kHB15W		H-150x150x 7x10	M20	1x 2	PL-9	開口補強材(横使い)
母屋		C-100x50x20x2.3@455以下	M12(中ボルト)	1x 2	PL-4.5	ダブルナット締め(SSC400)
母屋(棟部)		2C-100x50x20x2.3	M12(中ボルト)	1x 2	PL-4.5	ダブルナット締め(SSC400)
母屋(仕上JOINT部)		2C-100x50x20x2.3@1,820	M12(中ボルト)	1x 2	PL-4.5	ダブルナット締め(SSC400)
胴縁(天窓部壁)		C-100x50x20x2.3@600以下	M12(中ボルト)	1x 2	PL-4.5	ダブルナット締め(SSC400)
v1x	v1y	H-125x125x6.5x 9	M16	1x 2	PL-6	天井受フレーム材 下記注記参照
v2		C-150x75x25x4 (SSC400)	M12(中ボルト)	1x 2	PL-6	天井受フレーム材(振止め)、ダブルナット締め
b1		C-150x75x25x4 (SSC400)	M12(中ボルト)	1x 2	PL-6	天井受フレーム材、ダブルナット締め
b2		C-100x50x20x3.2 (SSC400)	M12(中ボルト)	1x 2	PL-6	同上、ダブルナット締め 下記注記参照

注記) ・CG20A, CB20Aの梁成について、基端200mm~先端100mmのハンチ付きとする。
 ・v1x, v1y各符号の末尾は、H鋼材の強軸方向を示す。
 ・b2(天井受フレーム振止め)は、屋根水平ブレースと干渉しないよう、取付く小梁下フランジに配置する。
 ・kP1, kHB2の接合は 2G.PL によるはさみ込み接合とする。

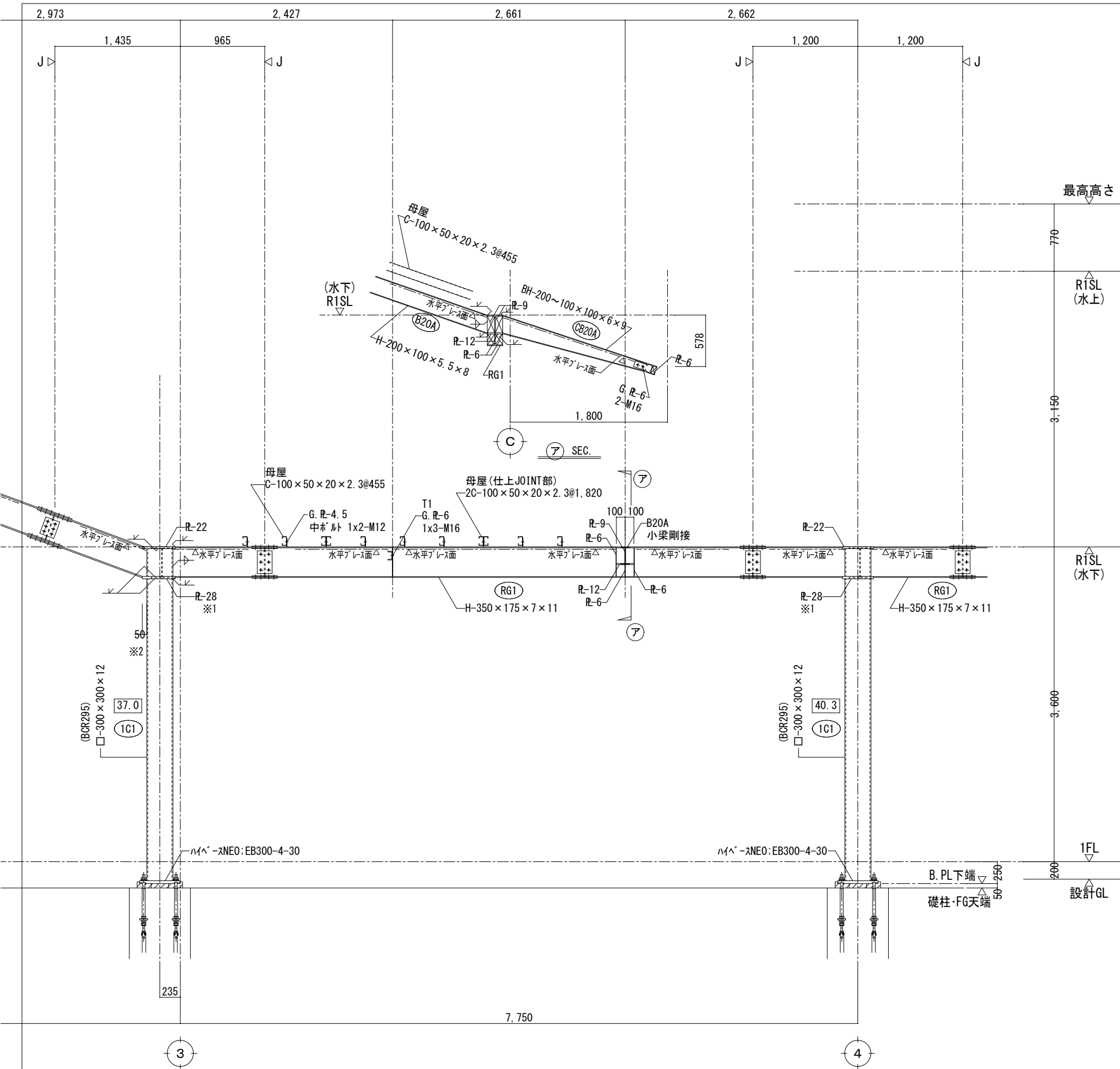


③ 通り鉄骨詳細図 1 縮尺=A1:1/25, A3:1/50

注記) 特記なき限り

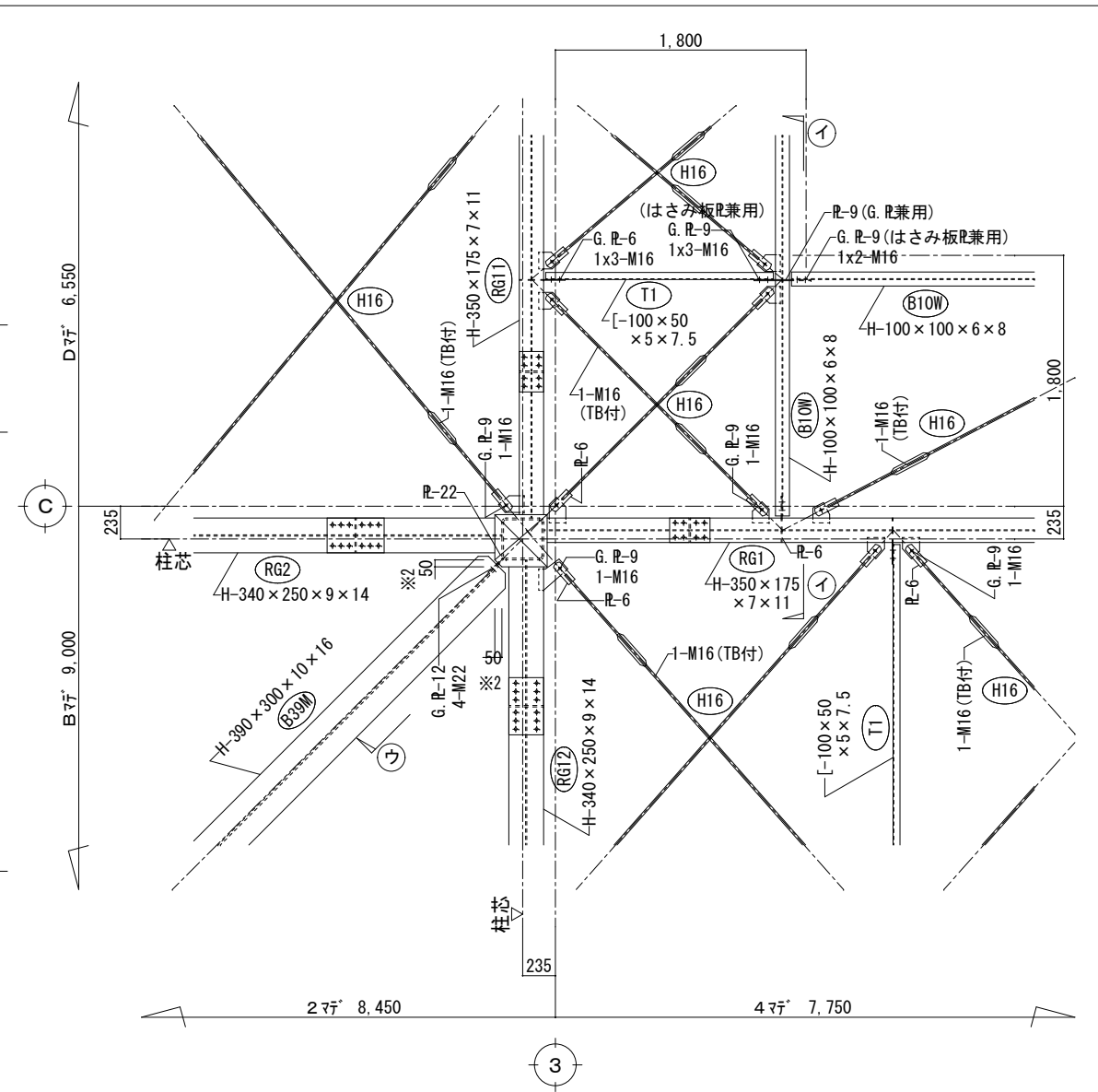
1. 鉄骨材質 柱: BCR295、大梁: SN400B、小梁他: SS400
高力ボルト (H. T. B.): S10T
母屋・胴縁: SSC400
2. ダイヤフラム材質: 通しガイヤ(ベ-ス) SN490C、内ガイヤSN490B
3. □は柱材有効細長比 ($\lambda x \cdot \lambda y$ の大なる方) を示す
4. ※1印下端通しガイヤについて、H340梁 (水勾配付) と直交H340梁の接合部の場合はR-42とし、H340梁 (水勾配付) と直交H350梁の接合部の場合はR-28とする。
5. ※2印寸法は、45°方向の小梁が取付く場合の柱外ガイヤの出寸法とする。
(通常の外ガイヤ出寸法は 25~30mm とする。)

Y・M・R 建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)

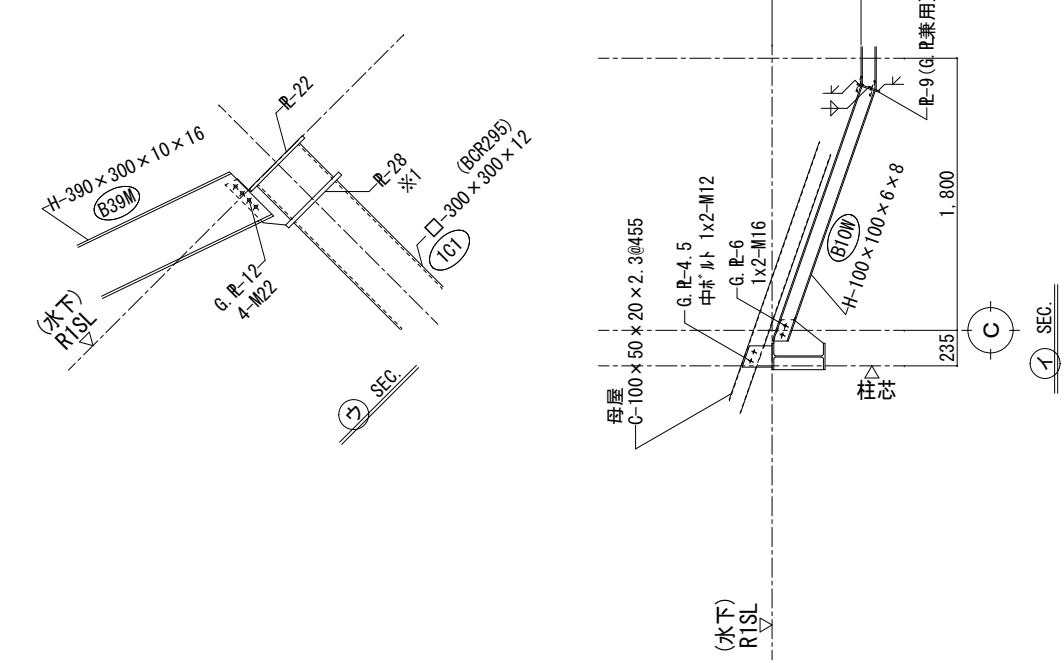


③ 通り鉄骨詳細図 2 縮尺=A1:1/25, A3:1/50

- 注記) 特記なき限り
- 鉄骨材質 柱: BCR295、大梁: SN400B、小梁他: SSC400
高力ボルト (H.T.B.): S10T
母屋・胴縁: SSC400
 - ダイヤフラム材質: 通し釘 (ハーフプレート) SN490C、内釘 (ハーフプレート) SN490B
 - は柱材有効細長比 ($\lambda_x \cdot \lambda_y$ の大なる方) を示す
 - ※1印下端通し釘 (ハーフプレート) について、H340梁 (水勾配付) と直交H340梁の接合部の場合はR-42とし、H340梁 (水勾配付) と直交H350梁の接合部の場合はR-28とする。
 - ※2印寸法は、45°方向の小梁が取付く場合の柱外釘 (ハーフプレート) の出寸法とする。
(通常の外釘 (ハーフプレート) 出寸法は 25~30mm とする。)

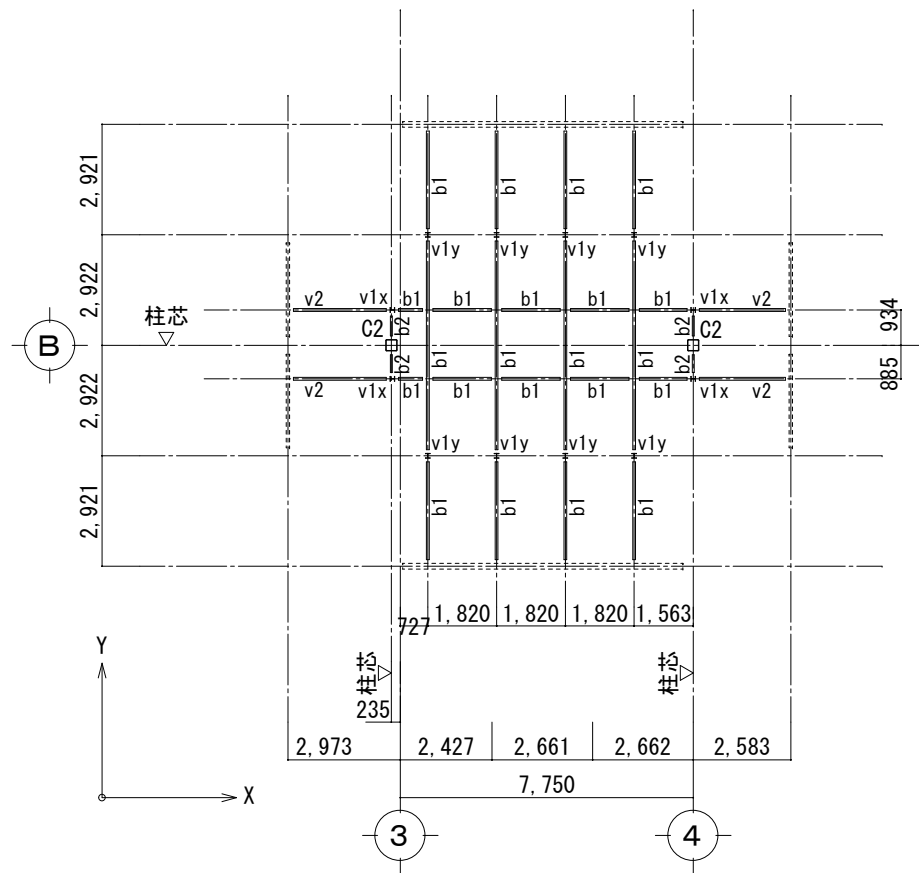


③ 通り平面詳細図 縮尺=A1:1/25, A3:1/50



Y・M・R 建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
(構造設計一級建築士 第 815号)

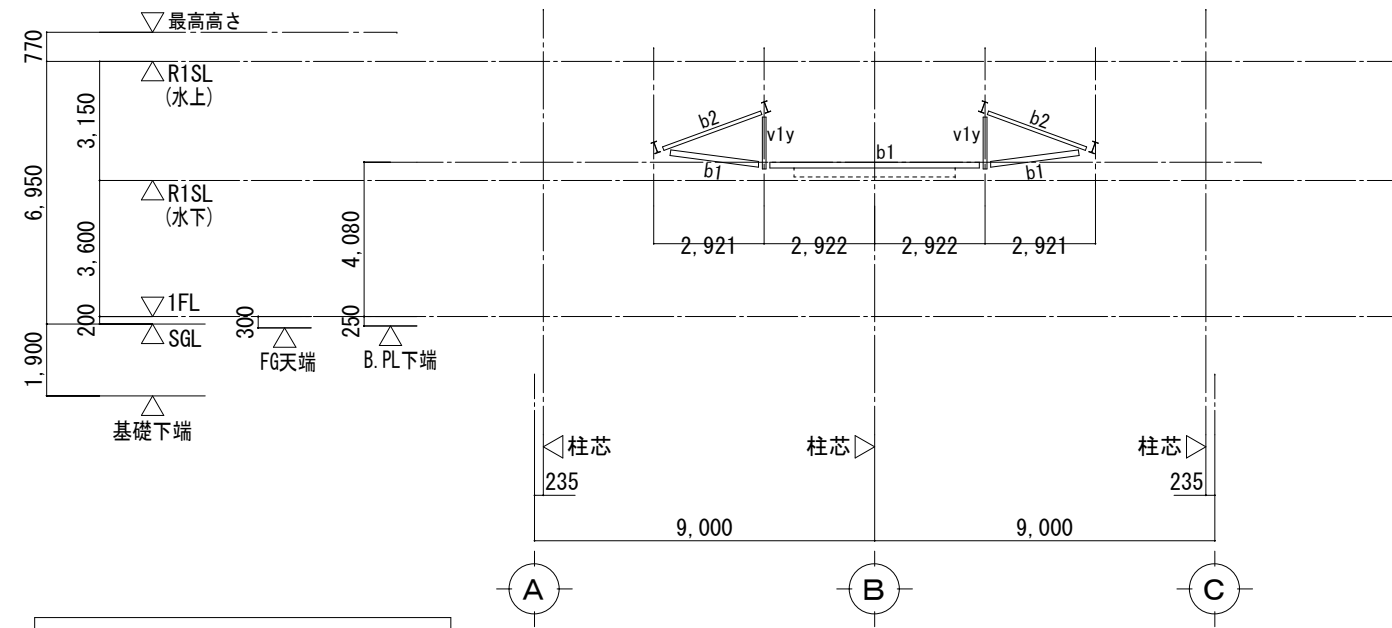
記 事	Architects PIZZ <i>Atelier YOU</i> 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (3) 第10474号	部長	設計責任者	工事名称	仮称 霞ヶ関北市民センター新築工事	作成年月日	図面番号
	一級建築士 第342763号 藤山智昭 設備設計一級建築士 第39号 山田洋			図面名称	鉄骨詳細図 (2)	2023.11.01	S-30



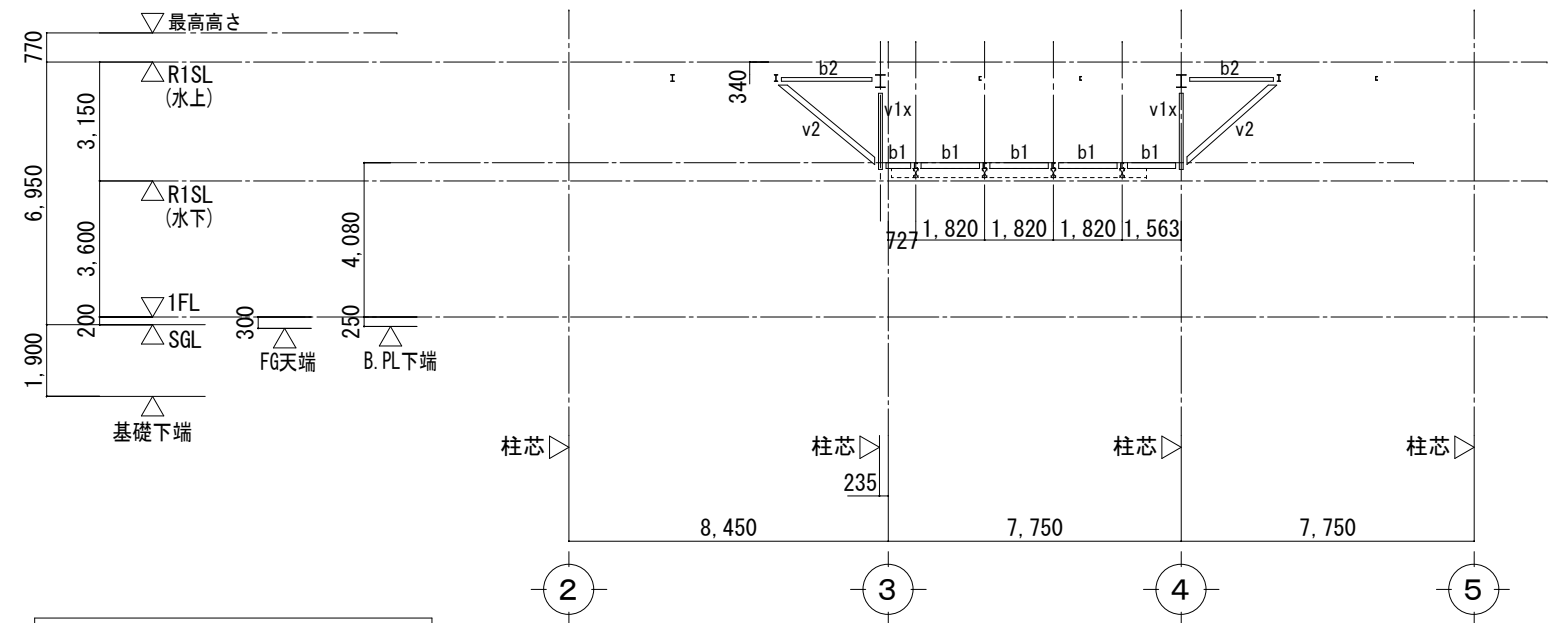
1FL+4,080伏図 (A3) S=1/200

特記なき限り下記による

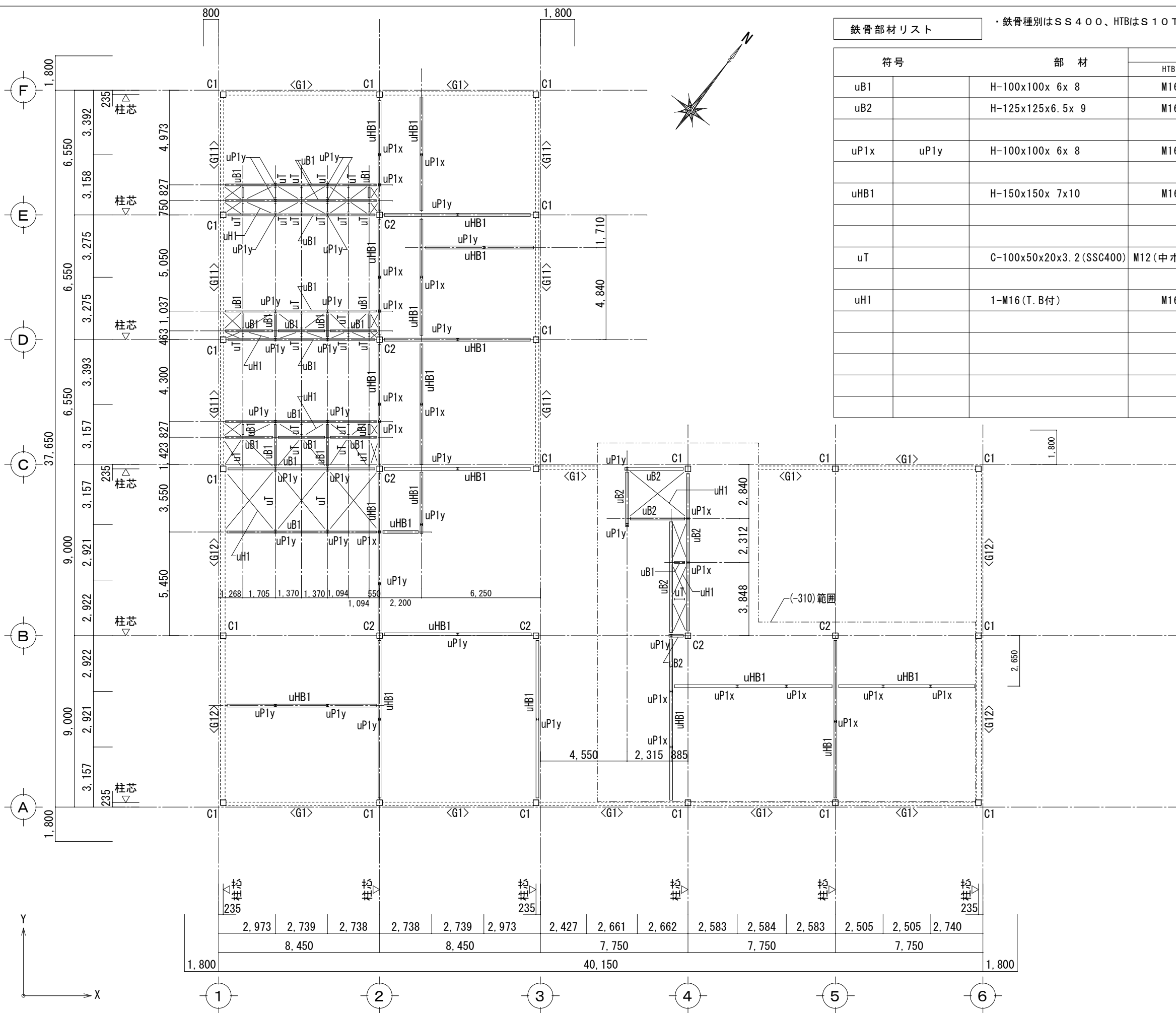
1. 基準レベル(梁天端)は 1FL+4,080 とする
2. 梁鉄骨天端は 1FL+4,080~R階梁天端による
3. v1x, v1y, b2は天井受フレーム振れ止め材を示す。
 - ・b2は水平ブレースと干渉しないよう、取付く小梁下フランジに配置する
 - ・v1xはH鋼材X方向強軸を示し、v1yはH鋼材Y方向強軸を示す



3通り+2,547軸組図 (A3) S=1/200



B通り+934軸組図 (A3) S=1/200



鉄骨部材リスト

・鉄骨種別はSS400、HTBはS10Tとする

符号	部材	WEB			備考	
		HTB	nw	G.R.		
uB1	H-100x100x 6x 8	M16	1 x 2	PL-6		
uB2	H-125x125x6.5x 9	M16	1 x 2	PL-6		
uP1x	uP1y	H-100x100x 6x 8	M16	1 x 2	PL-6	吊材 符号末尾のx, yは鉄骨主軸方向を示す
uHB1		H-150x150x 7x10	M16	1 x 2	PL-9	横使い (鉄骨主軸方向)
uT		C-100x50x20x3.2 (SSC400)	M12 (中ボルト)	1 x 2	PL-4.5	つなぎ材、接合材@60
uH1		1-M16 (T. B付)	M16	1	PL-9	水平ブレース

1FL+3, 360伏図 (A3) S=1/200

- 特記なき限り下記による
1. 基準レベルは 1FL+3, 360 とする
 2. 梁天端は 基準レベル ±0 とする
 3. ()内は基準レベルからの梁天端レベルを示す。
 4. < >内は大梁下端フランジを示す。
 5. T材取付レベルは、取付く梁天端±0~-50mmとする
 6. 水平ブレース ; H16 1-M16 (T. B付)
- ※各梁ウェブ芯を結び接合すること

Y・M・R・建築構造事務所 一級建築士事務所 埼玉県知事登録 第(4)9048号
 一級建築士 大臣登録 第240878号 北村善昭
 (構造設計一級建築士 第 815号)